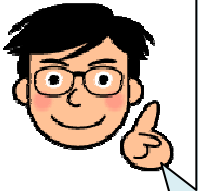


今、体育・保健体育科で目指したい授業

-運動の真の楽しさを体感させるために実践したい3つのこと-

1 目的や行い方を意識した運動の実践

子どもたちは運動の目的や行い方を理解しているかな？



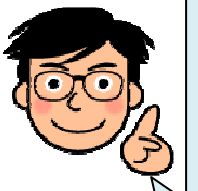
一つ一つの運動の目的や行い方を理解（意識）することで、子どもたちの主体的な学習が可能となり、運動に親しむ資質や能力の育成、体力の向上、健康の保持増進が図られていきます。子どもたちが、「やらされている」ではなく、「やってみよう」という意欲をもつことがとても重要です。

【配慮事項】

- 単元のはじめに到達目標を示したり、毎時のねらいを明確にしたりして授業を進めることが大切です。
- 副読本や学習カード等を活用して、ポイントをよりわかりやすくする配慮も有効です。

2 言語活動を活用した、楽しい学習の実践

子どもたちにとって、本当に楽しい授業とはどんな授業？



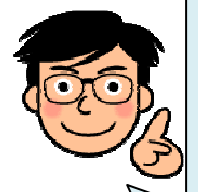
今、体育・保健体育の授業では、単に技能や体力を身につけさせることを目指すのではなく、学習活動をとおして自ら考えて課題を克服したり、友達との協力や互いに高め合う体験をとおして技能や体力の向上を実感するといった、体育・保健体育科の真の楽しさに触れさせることが求められています。そのためには、言語活動を効果的に活用し、子どもたちの思考力・判断力に働きかける学習活動がポイントとなります。

【配慮事項】

- 授業者には、子どもたちが思考・判断した内容を確認する場を設定し、それらの活動を適切に評価することが求められます。思考力や判断力を運動の観察から評価することは難しいので、学習カード等を活用し、子どもたちの思考・判断した内容を確認することが必要となります。
- 主に技能を向上させるための「教え合い」と、作戦を立てる際の「話し合い」の活動とを区別して位置づけることが重要です。

3 目標に沿った指導・評価計画の作成と実践

教科や単元の目標を達成させるうえで大切なことは？



教科や単元の目標を達成するには、指導者は子どもたちに、どのような力を身につけさせたいのか、そのためにどのような学習活動を行い、どのように評価していくのかを明確にしておく必要があります。子どもたちにとっても、自分ががんばったことを正しく評価されることで、学習意欲がいっそう高まります。

【配慮事項】

- 子どもたちの実態を把握し、指導・評価計画に反映させましょう。
 - 求められる3つの力「基礎的・基本的な技能・知識」「思考力・判断力・表現力」「学習意欲」を、「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能」「知識・理解」の4観点で、バランスよく指導・評価できるよう計画に配置しましょう。
- *体育・保健体育科においては、「表現力」は「技能」として評価します。